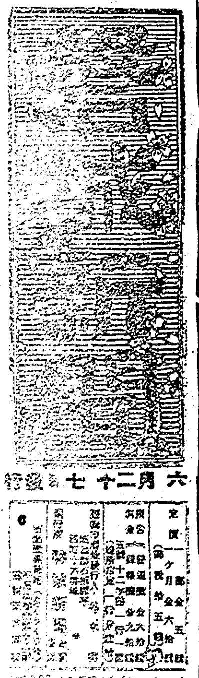
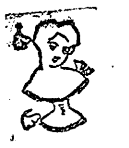
夕刊
六月二十七日發行



夏日隨感



横山三郎

（二）

島木赤彦、「作歌の第一義は全心の集中より出るものでなければならぬ」とを云つてゐる。全心を集中して萬象を靜觀する所に「行」としての作歌道が存在するのである。その靜觀を世界に映じた素材、それが作者の全投影となり得るであらう。新しい素材の獲得といふ事はその作者の背景にある作者の性格と人生觀が大きくされてゐなければならない。

支那事變勃發以來一年、更に中支に更に擴大し、南支に出征將兵につ[illegible]戰線短歌がすでに續[illegible]されてゐる。川田順は[illegible]變歌の傑作は直接戰闘の[illegible]をくぐつて生死の間を[illegible]ふ實際戰場での體驗を[illegible]體驗し國民前への間[illegible]ると述べてゐる。[illegible]事變歌と稱すべきもの[illegible]にニュース映畫によつてものされた作が、さながら彈雨の下をくぐつたかの如く詠まれて發表されてゐるものがある。ニュース映畫は結局ニュース映畫であつて決して戰場そのものではない。ジャーナリズムの採[illegible]せるものに他ならぬ。映畫を見てそれが皇軍將兵の全

貌である等と思ふものがあつて、その感激を戰場さながらの感激であると輕卒にも早合點するものがあつたらそれは正しい[illegible]である。銃後には銃後の民族的感激がある。最愛の夫を、子を、慈父を戰[illegible]に送つて生死をきづかひ、戰線を守つてゐる[illegible]。勿論直接間接に[illegible]體驗が立派な[illegible]材を提供してくれる[illegible]をこそ問ふべ[illegible]かも知れ[illegible]。然[illegible]日にこそ銃後の[illegible]のを求むべきである。[illegible]大日本歌人協會[illegible]文部省の補助を得て大規模な「支那事變歌」を[illegible]る。[illegible]勇士[illegible]詠歌[illegible]銃後にあるもの[illegible]感激を素材として愛國の赤誠を詠むべきである。生活は眞實として存在する。が歌は自然に存在するものではない。歌があつて生活があると云ふものでは決してない。生活があつて歌があると云ふ最も簡單な事實それが作歌の「行」である。時と共に生活する歌人に呼びかけられるのを素材[illegible]

[illegible]しばらく靜かに待つてゐるのだ

6月28日

△ルウソー生る（一、七一二）△墺洪國皇儲暗殺せられ世界大戰起る―大正三
△天津問題東京會談開始に決定（昭和一四）

○

教育とは、他人から受けるやうであつて實は自分が取入れるのだ　スペンサー

鶯風[illegible]　[105]

[illegible]おきぬは唐人龜と云ふ[illegible]丸ノ内のお屯所へ[illegible]

『これには譯もあります、然し今そんな事を話してゐる場合では無ね、ようがすかわつちが云つた事を能く覺えて居ておくンなせ、アヽ醉つた〳〵、ヤイ番人酒を持つて來な』
『だまれツ靜にいたせ』
『まだ寢られねヱヤイ、酒がなければ水を持つて來い……モツおきぬさん、茲に匕首があるが、これをお前さんに渡して置く、こいつは繩を斷る道具だ、送りの者に知れぬやうに呑んでおいでなせヱ』
出した匕首、おきぬはそれを受取り、
『預つて置くよ』
懷中へ忍ばした、唐人龜はゴロリと横になつたが、やがてムクムクと起き上り
『何う云ふ譯でおれを斯んな所へ入れ、若しそこに居る旦那、茲は何處でござんす』
『當所は官軍の屯所だぞ』
『それは大變、何うぞ旦那助けておくんなさい』
『醉ひがさめたか』
『醉つてゐて何にも知らなかつたが、茲へ入れられた所から考へると善くねヱ事をしたらしいナ』
『[illegible]大それた罪も犯さぬ事とて親も女房もござ[illegible]ます』
『[illegible]上役に取り成して此度は許してやるが以來酒を慎め』
『禁酒いたします』
やがて留置所から引き出し
『今後無禮いたすと嚴罰に處するぞ』

『ヘエ、是から酒は飲みません、何うぞ御勘辨下さいませ』
『惡い酒だナ、鐵砲を貸せ鴉を射つてそれを鍋で一杯飲ると申したぞ』
『ヘエ、そんな事を云ひましたか鴉の後悔先に立たずお蔭で助かりました』
と龜は禮を云つて此屯所を出る其日の夜おきぬは留置場から是も引き出されて駕籠に乘せられ兵士三人附添ひ、丸ノ内の糺彈所へ送られる、後に此の糺彈所は彈正臺と申しました
附添ひの兵士三人は手丸提灯にて道を照らし、並木から駒形堂を左に見て諏訪町から黑船町、お厩の渡場近く來たが、茲は今は[illegible]になつて居ります、幕府時代にお船手、これは幕府の海軍ですがお船手の人々が此處で水馬の練習をいたしました、それで厩があり、これより本所石原に行きました船をお厩の渡しと云ふたさうです。
茲まで駕籠が來た時におきぬが
『お願ひ申します、此の駕籠を止めて下さいな』
『何ぞ用か』
『便所へやつて下さい』
『何ンだ便所とは』
『いゝですよそんな事を云て』
『嫌な事は申さんぞ、便所と、何ぞ云ふ物か』
『お小用をいたしたいのでございます』
『ウムさうか、此の往來で用を遂せ、それが出來ずば丸ノ内まで堪へろ』
『そんな事は出來ませんよ』
『女は不自由なものだナ、それでは川まで伴れて參る、これにて用は遂せ』
と駕籠から引出し小手をゆるめ、腰繩と打ち替へて提灯をさげおきぬを厩の渡しまで伴れてきた、時五月の二十日、宵の中は月は出ぬ、それに空も曇り川の面も暗く、岸打つ水のみ白く見える殊に滿潮で流除けの杭が隠れる程潮が[illegible]て居る兵士が繩をゆるめ、
『早く用を遂せ』
『有りがたうございます、チョイと旦那、此方を見てはキマリがわるいわ』
『これでは見ぬやうに致す、此の便所は廣いぞ海まで續[illegible]』

亡妹悲歌

露木柾夫

（二）

○ときにあれば吾が掌の瘦せをうべなひつつもの食ひをれりあわれ不味きに
○こときれしいのちまへに歎き給ふはゝが齡ひを思ひかなしむ
○かなしみをこらえいたりし時の間よ紅に咲く躑躅眼に泌む
○光りすでに幽けくなりし昏つかたまむかふ山が迫りくるごとし
○夜更けて家内の隅の鼠らがもの囓ぢる音あわれにきこゆ
○いのち畢りみ佛のまへに行くらんか淸しき顏によりて歎かゆ

小兒科・內科
酒井醫院
入院隨時
平市南町（電五五番）
醫學博士 酒井保

銃後の護りは……先づ健康から
如何にして難病を征服すべきか
工學博士藤山常一先生發明
世界七ヶ國專賣特許
磁氣放射 マグネタイザー
適應症 高血壓、中風、神經痛、ロイマチス
胃腸病、痔、肋膜炎、婦人病
小兒痲痺、蓄膿症、喘息其他
種々の療法を試みても捗々しくない御方はスグ一度御試驗して下さい。從來の電氣の如くビリ〳〵する不快な感じは絶對になくお召物の上から誠に氣持よく、しかも大衆向料金で叮寧に治療致します。
午前八時より午後九時まで
（毎月第一日曜休業）
平市二丁目三十一番地（元專賣局跡）
最低の料金 最高の効果主義
平磁惠院

酒トマヅイ
たでんの
榮ちゃん
平市田町花ノ里
電話三三番

[illegible]イヤペン付
[illegible]工[illegible]筆
[illegible]以上
[illegible]用品工
[illegible]出品[illegible]
[illegible]各種使用品[illegible]
[illegible]合格[illegible]嚴重な
[illegible]る新
國策製品
代理店
魁文堂
電話三三一

燈火管制用電氣カバー
規定通り 試驗濟の
此レダく
模範燈火管制ニハ是非御利用ヲ
六〇ワット以下ノ電球ニハ調節自由ニ減光出來マス
空襲管制ノ場合ニモ調節ニテ消燈同樣ニナリマス
長時間遮光スルモ器具ニハ燃燒ノ恐レアリマセン
防空用器具、投砂袋
折疊式竹網、管制カバー
製造元 平市南町三〇番地
福屋漆器店
工場南町四六番地
電話「呼」一七 三 二番
振替口座東京八二 九九九番

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた
レストラ
サロン
平市銀座街
電話五九二
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より
閉店…午後十一時
時々限り

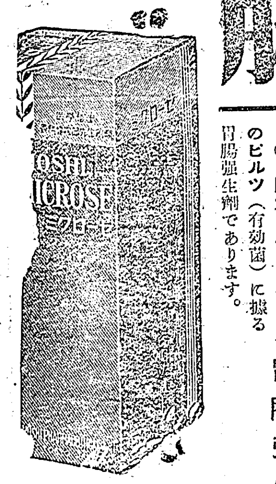
醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

防火防空銃後のつとめ
資源愛護は火の用心
太陽無機コロイド塗料定價表

塗料番號	色別	容量	防火塗料價格
一號	白色	斗罐入	三〇、〇〇
二號	濃鼠色	同	三〇、〇〇
三號	黑色	同	三〇、〇〇
四號	[illegible]色	同	三五、〇〇
五號	國防色（陸軍色）	同	四五、〇〇
六號	濃綠色（海軍色）	同	四五、〇〇
七號	[illegible]色	同	五、〇〇
八號	クリーム色	同	四〇、〇〇
九號	綠色	同	四〇、〇〇
〇號	薄藍色	同	四〇、〇〇
地塗液		二升罐入	五、〇〇
仕上液		同	三、〇〇

（各一罐の塗料面積二十坪ヨリ三十坪）
あなたの御建築物の御保護のために、更に進んで國防的御見地から、是非効力絶大なる太陽無機コロイド防火防空塗料の御使用をお奬め致します
專賣特許 太陽無機コロイド販賣店
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り
電話二六二番

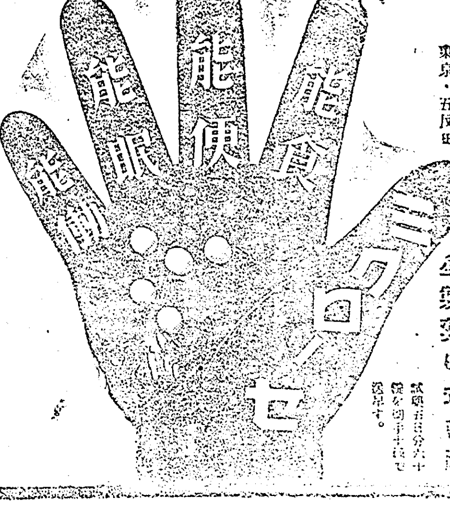
腸內・殘敵を掃蕩せよ！



便通のない日があつてはならぬ！
我々が口から食べた食物も、一旦、腸内へ殘渣として停滯すると、恐るべき殘敵として樣々な害毒をひき起します。[illegible]、頭痛、無氣力、[illegible]、ヒステリー、高血壓、不眠、[illegible]べて腸內殘敵の仕業であります。
何分にも、我々の身長の四倍强の長さを持つた腸內のことであります。その中に毒素が充滿し、血液中に浸入して行く有樣を想像して見れば、排泄の大切さ、便秘の恐しさが認識しない人はないでありませう。
食物が、人間の消化器官を通過して、排泄される迄には、大體二十時間乃至二十四時間を要するのであります。故に、健康人は日に一回、規則正しい便通がなければならない筈であります。

便通がないからと言つて
直ぐに下劑を服む人がありますが、大間違ひであります。下劑は、腸の活動力を弱め、恐るべき習慣性を作ります。
醱酵劑の上を行く我がミクローゼは、單なる便秘專門藥ではありませんが、强力な各種消化酵素とヴィタミンBの力によつて、腸の[illegible]力を省き、蠕動力を强め、消化吸收を助け、快い便通を齎す一大特徴を有して居ります。
ミクローゼは、前京都帝大醫學部助教授豐島豐次郎先生が十八年に亙る御研究の結果、酵母にまさる唯一のものと斷定された日本固有のビルツ（有効菌）に據る胃腸强生劑であります。

ミクローゼ
（[illegible]　一圓五〇錢）
胃腸强生



東京・五反田
星製藥株式會社

怠るな出資履行登記
市郡下で該當合計三百六十件
期限愈よ兩三日に迫る

基礎確實な大會社は勿論、假令税金の輕減、逋脱を目的とする如き一部の同族會社でも苟もこと法人である限り『出資履行登記』と云ふ手續きを履まねばならぬことになり、その期限が目睫の今月一杯で之を怠ると時局柄殊に不名譽な其筋の處罰を受けねばならぬ
即ち昭和十三年四月法律七十二號同七十三號を以て改正された商法及び同施行規則が今年一月一日から實施された結果、法人は悉く從來の登記以外更に「いつ幾ら出資したか」を登記せねばならなくなつた
而して市、郡下の會社は現在營業中のもの
株式六〇、合名五〇、合資一四八、計二五八
の外休業その他名ばかりのもの約百件を算し、之の部類に屬するものは法人として現在何らの機能を有せぬものが大部分であるが、これとて所定の手續きを要する事勿論であり、各登記所は愈よ期限を目前に控へその受理に忙殺されてゐる

食糧報國運動實踐
來月一日公會堂で協議

市では此程公會堂に開かれた精動支部主催の戰時下食糧報國問題を中心とした協議會で種々戰時下國民の心構えについて指示されたので愈よこれを實行に移すことゝなり來月一日午前九時半から市公會室に精動運動に關する協議會を開き左記諸件につき懇談する
△食糧報國△貯蓄獎勵△金買却△興亞奉公日△常會について

小名第二校開校

新築成つた小名濱町第二小學校は二十四日諏訪神社で修祓式を終り二十六日開校した、竣功式は來月中旬擧行の筈

交通事業界の覇
野崎交通自動車株式會社
創業十週年記念

三十五台の新式車輛と男女六十名の多數從業員を擁して地方の交通事業界に颯爽たる飛躍振りを示し居る市內字田町二野崎交通自動車株式會社
資本金十八萬圓　取締役社長野崎滿藏、專務野崎喜八郎、取締役横山太一、野崎隆之亮、監査役中野豊須美、野崎秀行
では昭和二年八月野崎自動車商會として創業（六年三月合資に、今年三月三十日現在の株式に改組）以來、今年が恰も滿十ヶ年に相當するので之を記念すると同時に各方面平素の眷顧に酬ゆるため來る三十日午後五時から谷口樓に關係各市町村長、官公衙代表其他地方有志を招き時局に相應しい簡楚な祝宴を張ると云ふが現在同社の有する路線は左記七本で因て被る地方の利便は蓋し絶大なるものがある
平＝江名（一九キロ八）平＝小名濱（一六・九）平＝赤井（六）小名濱＝湯本（九・三）平＝湯本（八）綴＝宮（三）湯本＝藤原（四・七）

宮下氏表彰さる

植田町植田ミルクプラント方宮下要吉さんは勤續十五年の廉により二十五日若松市で開かれた縣牛乳協會第十二回總會で表彰された

防空訓練近づく

既報、今年度第二次防空訓練は愈よ來月十三日から實施されるが十三、十四の二日間は準備管制、十五日から十七日まで警戒管制を行ひ十八、十九兩日綜合本訓練に移る豫定である

頃來の程良い降りに
地方農家愁眉を開く
田植ゑの見透しつく

昨曉來今朝迄續いた待望の雨は坪當り一二・二(二斗一升三合二六)＝神谷農試分場觀測＝勿論大した降りでは無いが醉ひざめの其れにも增して咽喉から手が出る程に水欲しい田植ゑ時の農村にとつては全く千金の慈雨である。而も未だ以て足れりとせぬ方面も蓋し少しとせぬがこの先きの天候はどんな事になるか、差當り測候所の卦によると
頑ン張りつゞけてゐた高氣壓も日本海中央部に根を張つてきた低氣壓のため次第に弱り出し太平洋を東の方へ移動し出したからどうやら梅雨型の氣象配置です、然し今年の梅雨型は斷續的質ですから何時また高氣壓がのさばり出すか知れません
とあつて、此の儘照り上る場合も考慮せねばならぬが今日の空模樣では急激に赫と來るとも想はれず、心配の裡にも大体程良い降りによつて地方の農家は些か愁眉を開いた形である

我先きに田植開始
けふ鎌田青年勞力奉仕

戰時下の緊張を孕む今年の田植は縣當局に於ける勞力交流の張り込みに地元職業紹介所なども相呼應して勞力移動班の結成や出征遺家族に對する部落民並に各種團体の率先援助などで甚だしい水不足に惱まされながらも既に大部分を終へ、殘された市近郊も昨日來の降りを機として一齊に取り片付けた、市內鎌田町青年團では女ばかりな同町出身兵鈴木繁彌君留守宅のため今二十七日早朝來團員出動元氣に植付けを應援し女子團員もモンペ姿甲斐／＼しく炊事を援けた

秋の日照りに期待
植付け遲れ案外影響薄？

昨日來の雨でその大部分は終るものと見られる地方農村の田植は一般に遲れたがこれが秋の取入れにどう影響するか、郡農會當局では
勿論よい現象ではないがそれ程のこともあるまい秋に入つて日照りが續けば植付けの遲れた分も容易に挽回出來るものである
と樂觀しながらも、あと一と降りを望んでゐる

商組指導階級講習
小名濱で　來月末から一週間

商業組合中央會縣支部では戰時下一層商業組合の活動を要望されてゐる折柄關係者導者の事務指導と身心鍛練を目的に來月下旬から七日間小名濱海岸で『商業組合指導者事務講習會を開く定員三十名、來月十日まで申込まれたいと
（科目）學科、修養、鍛錬
（資格）商業組合役職員で四十歳未滿のもの、共同炊事米七日分の外一日五十錢宛負擔

爆笑裡に心ゆく迄
鄕土の御慰問に醉ふ
現地にて　鈴木軍曹（通信）

拜啓時下愈よ御健康賀し奉り候。過般は鄕土より遙々御慰問團一行を御派遣下され御芳情深謝奉り候。我ら一同心行く迄趣味豊富なる鄕土藝術を滿喫致し且つ鄕土銃後の皆樣の御熱誠なる御後援を感銘致し候。
我が部隊に於て開催せられ、終始拍手の中に鄕土藝術を遺憾無く發揮せられ中にも石城の盆踊りの如きは傑作中の傑作にて他郡將兵をよそに昔を偲んで舞台に飛び出し踊り出す者等あり候て一同爆笑の裡に閉會致し、十年振りにて鄕土慰問を滿喫致し候。
さて御一行も丁度雨季に遭遇致せしも幾多の困難を克服され、各所を熱演され八日十時三十分牡丹江發列車にて次回開演地に向ひ候
昨日より降り初めたる雨もからりと晴れて當地も愈よ夏の第一歩に踏み出し本日は水銀柱も九十度を突破致し候。
世界の情勢千變萬化の折我々も專心軍務に精勵致し御恩に報ゆる覺悟に御座候
先は右御禮迄。

陣中を聽く
(789)

御面倒願ふ
市內中平窪出身　加藤憲一君

暑中御見舞申上候。
時下向暑の候御機嫌如何に御座候哉御伺ひ申上候。降て小生儀幸にも無事上陸以來第一線に御奉公致し居り候間他事乍ら御安心下され度候。
回顧すれば小生が征途に就てより早や××誠に歲月の流るるの早き東西を辨せざる小生にも泌々と感せられ申し候。
小生不在中は生家が如何ばかりか御面倒相かけ申す事と遙察致し居り候何卒御見捨てなく御愛顧の程偏に奉希上候。
先は御見舞旁々右御報らせ迄乱筆にて早々頓首。

あすは曆面の三隣亡
科學的根據などは論外として火氣を自戒するなど咎めなし

時局柄迷信沙汰は以ての外であるが明二十八日が曆面のサンリンボー（三隣亡）である。これは正月二月、三月と月を順に繰り、亥寅午と日を配り、十二月迄この順を繰つて三隣亡の忌日となる。卽ち正月、四月、七月、十月は亥の日、二月、五月八月、十一月は寅日、三月、六月、九月、十二月は午の日がその三隣亡に當り、この日に屋作すれば三隣を亡ぼすと云ふ。また別な物の本には、その日の火祟る忌日であることを記して以來、茅屋葺工など最も忌みて之の日を避けた。云々
科學的根據などは勿論詮索の限りでないにせよ火の用心の自戒に資するなど強ち咎め立てするにも當るまい

健鬪の女性禮讚
明後夕市公會堂で
前線慰問團歡迎會

現地慰問の濃艶使節として去月十九日當地を出發した本縣代表鄕土演藝慰問團平市藝妓屋組合師匠花柳夫妻外五名の一行は愈よ明二十八日午後二時五十分着磐越線にて平驛歸着直に縣社子鍬倉神社前に無事歸還を奉告明後二十九日午後一時から市公會堂に報告演藝會を開催する旨前報の如くであるが右報告演藝會に引續き同四時から公會堂日本間に於て青沼市長、野崎市會議長、藤田聯軍聯合會會長、新聞記者團主催の下に一行の歡迎會を開く事になつた。會費一圓多數參加を望むと

娘斬りに一年半　求刑

娘斬り事件の臨男＝赤井村西小川無職山口忠(三六)は二十六日平區裁井裁判長、平島檢事立會で開かれた公判で懲役一年六月を求刑された、判決言渡しは來月九日

勿來關址に記念碑

傷痍軍人會石城分會では二千六百年記念國運隆昌祈願のため史蹟と名勝の地勿來關址に記念碑を建立、事變記念日の七日盛大な除幕式を擧げる

似弟婦
瑞雲　小野務平

淑德唱隨人所推
一家從是向榮來
國樂和合如春日
梅値歷寒花忽開

平市慶弔錄

○婚姻　東京市本所區東兩國一丁目七清水幾三郎氏(三三)と中鹽字松山一〇〇矢吹イチさん(三九)、東京市荒川區三河島町四丁目三、〇七八吉川守一氏(三五)と正月町一一色冬さん(三三)
▲死亡　才槌小路二ノ四伊庭サイさん(八三)、本籍三丁目二西白河郡白河町字中町四四小島美惠子さん(一九)

視察先から

參事會員一行五人、齋藤秋田、山形三縣の視察を了し、今晩當地に投宿致しました。酒田市の市營電氣事業は殊の外羨ましく存じました。
明日山形市か石の卷市の內一つを調査し歸平致し度いと存じて居ります
二十五日
上の山温泉にて

□　大嶽肇

色々御手數をかけましたが參事會員一行五名の視察旅行も本日の山形市丈けを殘し無事濟みました
昨日迄は好天氣に惠まれ一同天氣で旅行を續けましたが今日は朝から雨、降られて歸る果報者ですかな
二十六日
吉田寅、吉村、矢吹龜、多田井、大嶽

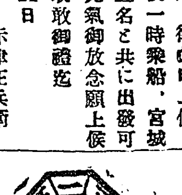
鹿兒島にて　此度出發に際しては一方ならぬ御配慮を蒙り、K氏御見送り下され又祝電車中白河にて相受、重ね／＼の御辭援厚く御禮申上候。今日午後一時乘船、宮城縣一行五名と共に出發可致、大元氣御放念願上候
先は不取敢御禮迄
二十五日
赤津庄兵衛

拈華微笑

昏睡狀態の法人が市郡下に約百位しか無いとサ
□
出資履行登記料の調達に面喰らつた社長樣幾人
□
昨曉來田植ゑ水の配給坪當り二斗二升三合二勺六切符は要らなかつた
□
大陸から歸つて明日からまた新田町で演藝慰問班
□
無花果の葉ずれわびしくどうやら梅雨氣分

二十八日　【小名濱測候所觀測】
滿潮　前一〇、三五　後九、三五
干潮　前四、〇〇　後三、〇五

新曆　六月二十八日　金曜
舊曆　五月二十三日　壬寅　先負　成　牛宿



▲一白　天の利はあれど人の和に欠くる所あり注意▲二黑　晴うんは自然と身邊を去りて快哉となるべし▲三碧　無理に發展せんとする時は却て破敗すべし▲四綠　老廢ゐびの風に捕はれぬ樣に自奮すべき日▲五黃　こすくひに快を求めず末の大漁を心掛くべし▲六白　氣ばかり大きくなりて常務の捗どらざる日▲七赤　他人相手に此までとこゝふりし事も皆解決すべし▲八白　大に活動せらるゝ自由の天地に出でらる日▲九紫　外にありて昇を高ふすれば內に離みを增す

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩　南の風曇小雨
明日　同

廣告

田毎のみつまめ
白蜜と赤蜜
あんみつ
苺ミルク
電632　田町

おでん
たつた揚
やきとり
一平
電話二六三番

故判事妻文子永々病氣ノ處本日午前二時逝去致候間御通知申上候
追而葬送ノ儀明二十八日午後二時自宅出棺可仕候供物ノ儀ハ固ク御辭退申上候
昭和十五年六月廿七日
平市才槌小路五
國井正

母テウ儀永らく病氣の處本二十五日午曉大壽を全ふし死去致候に就ては來る二十八日午後二時自宅出棺菩提院に於て葬送の儀を相營可申候に付此段御通知申上候
追而時局柄花輪供物等一切御辭退申上候
昭和十五年六月二十五日
喪主　加納邦武
男　佐藤作平
外　親戚一同

病室・手術室完備
產科　婦人科
醫學博士　五十嵐雄二
（物理療法科併置）
〔入院隨時〕
平市新川町（電話三六九番）

開院廣告
內科　外科
平市六丁目
叶多醫院
電　三九二

本年度の盛夏服
Refinetex
リファインテックス
ボーラー
フレスコ
パームビーチ
シルクテツクス
クールシルク
在庫豐富
大崎屋洋服店
平　銀座　電96

開店披露
お多幸
おでん
串やき
鳥
芋鱈
大阪名物
暫らく休ませて戴きましたが此度內容を改造致し營業を續けることとなりましたから何卒御贔屓の程を御願申上ます。
田町末廣トナリ
お多幸